通俗三呑志

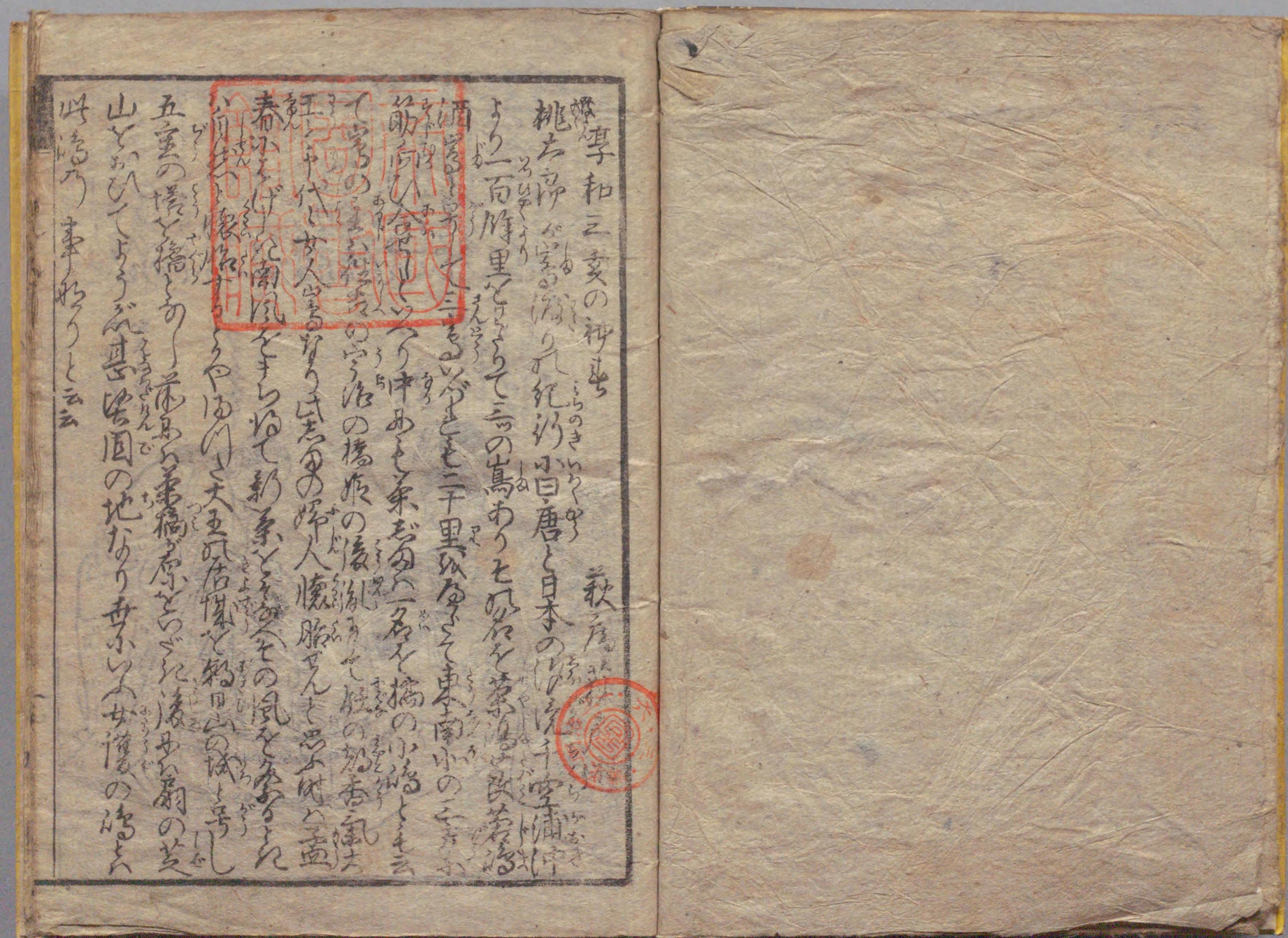
207
564

国立国会図書館　通俗三呑志 : 3巻 207-564

ガラス使用

国立国会図書館　通俗三呑志：3巻 207-564

ガラス使用

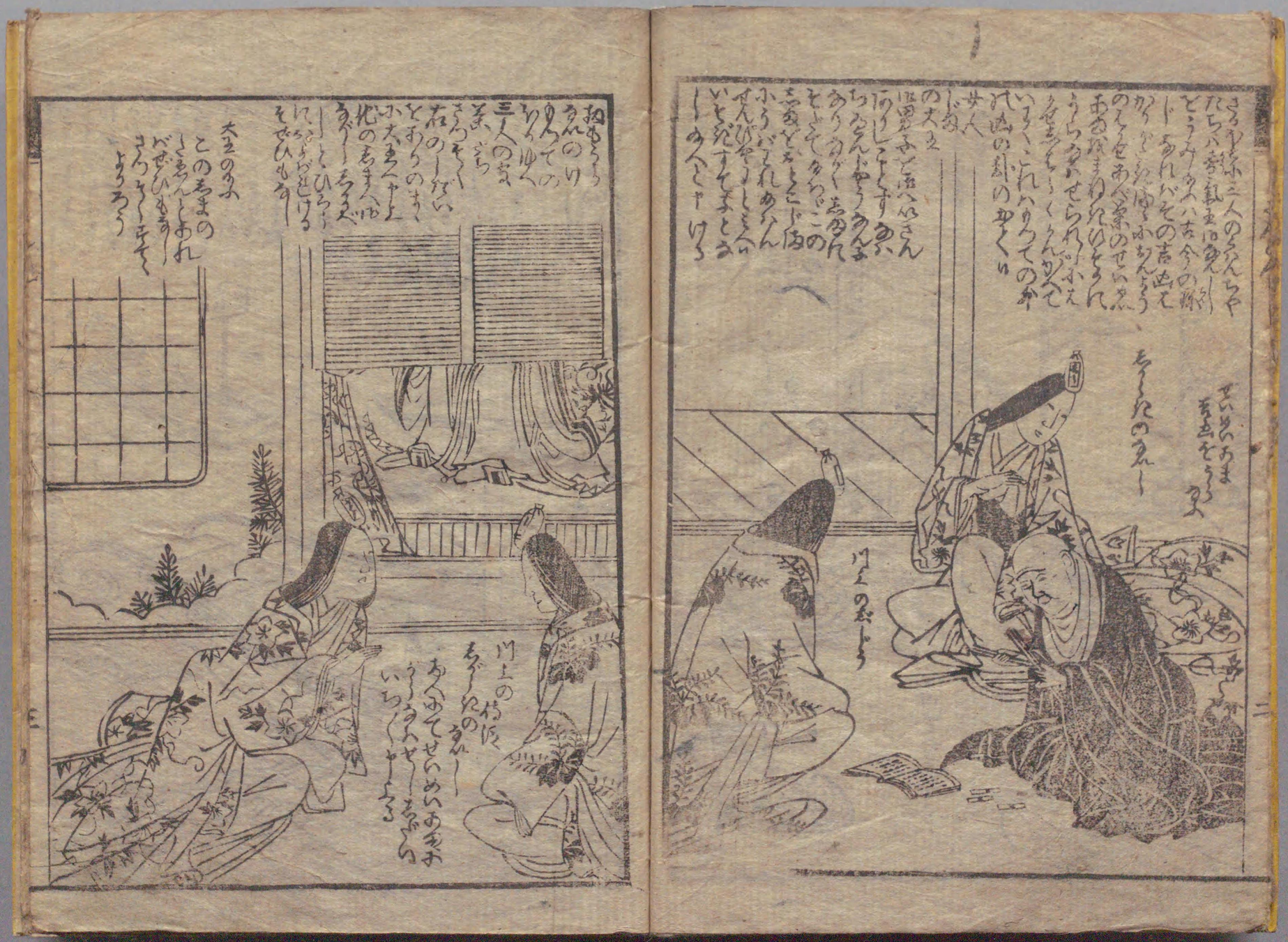


享和三癸亥の秋

桃太郎が宮の傍りに紀州小目唐と日本の境流れ空浦中より一百餘里ばかりにて三の嶽あり七ツ石と称す薬湯酒蔵多し三ツ嶽より中あり東北の一名を摘の小路と云て常の人通ることなし其の治の橋脚の侯綱あり其の加香風江戸中に女人堂なり其の婦人懸脚ぶんと思ふ風を春ふとげ南風をまちぬて新茶と云その風を春ふと前夫の客作ちうやはりさ大王吹居候と称日山の城と号し五室の塔と稱し一番ら茶屋高野山とおひてようぶ基盤の地なり毒ふいの女護の島と此島の事なりと云云

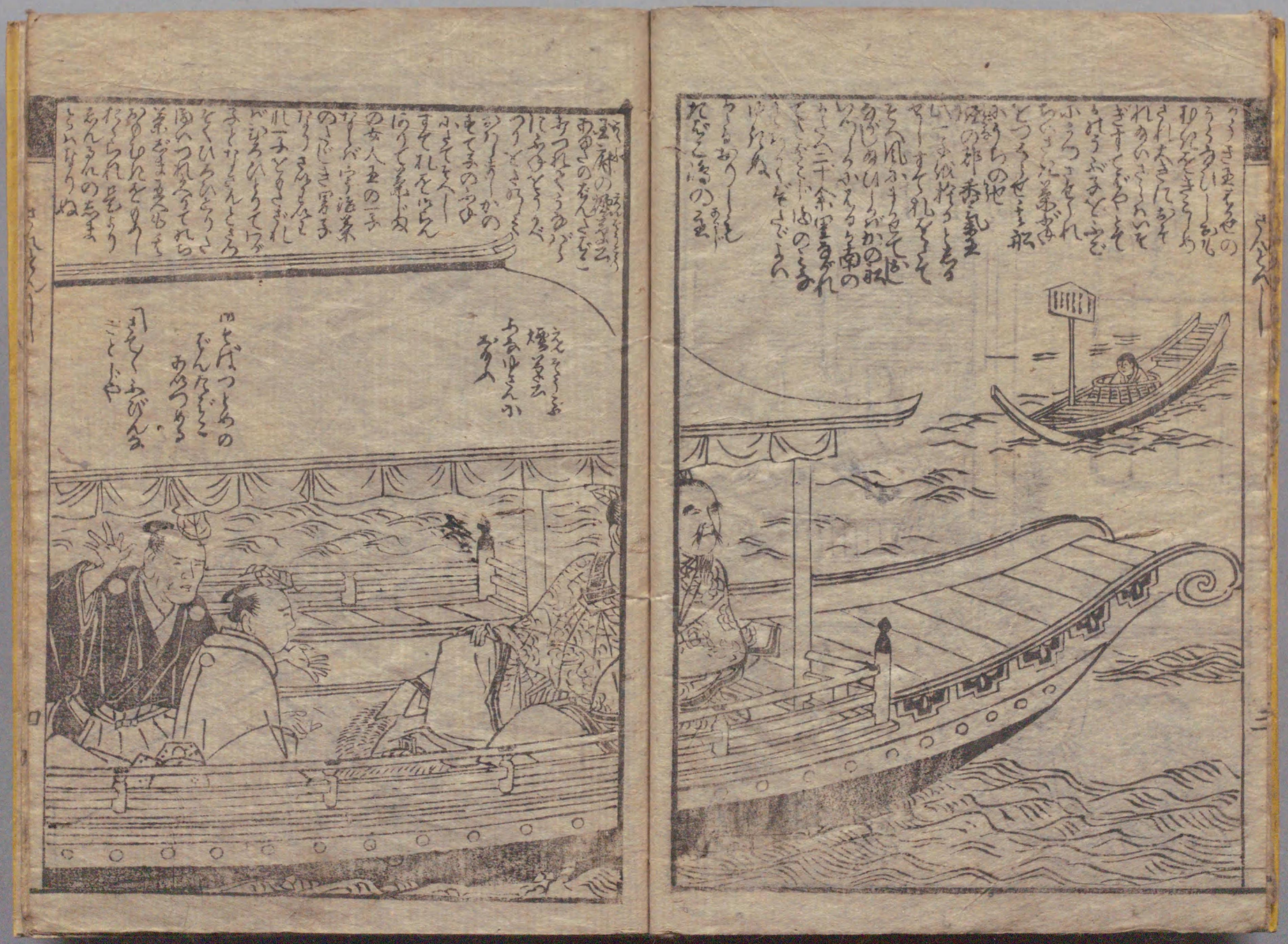
国立国会図書館　通俗三呑志：3巻 207-564

ガラス使用



国立国会図書館　通俗三呑志：3巻 207-564

ガラス使用



国立国会図書館　通俗三呑志：3巻 207-564

ガラス使用

国立国会図書館　通俗三呑志：3巻 207-564

ガラス使用

国立国会図書館　通俗三呑志：3巻 207-564

ガラス使用

国立国会図書館　通俗三呑志：3巻 207-564

ガラス使用

国立国会図書館　通俗三呑志：3巻 207-564

ガラス使用

国立国会図書館　通俗三呑志：3巻 207-564

ガラス使用

国立国会図書館　通俗三呑志：3巻 207-564

ガラス使用

国立国会図書館　通俗三呑志：3巻 207-564

ガラス使用

国立国会図書館　通俗三呑志：3巻 207-564

ガラス使用

国立国会図書館　通俗三呑志：3巻 207-564

ガラス使用

国立国会図書館　通俗三呑志：3巻 207-564

ガラス使用

国立国会図書館　通俗三呑志：3巻 207-564

ガラス使用

さんえん

さて城中ゆかしき子
をぞ[illegible]ゆきころ
酒どもさぞこまま
ようおいよせやさ
ふるときくおぐろ
きさこぐかくわも
てれとらせぐべき
くくくくくのびやう
ぎくりぐうつゆ
ひくりんをうにき
ちくさう老松素雪
ゆくこふゆんぐいふ
ふたゆれわくゆれ
いをだ大ほの門を
くよせよせくうて
きふふくくとせ
ゆふのこもんと
ゆぐそをりふ
すまもおくせも
ゆぐりくくよせる
なぐこの大ぐんこた

十一

とくいくそつくう
げう城門のさけせい
ゆくうやくゆ入の
おくゆをたうまふ
ちくくくそくんせい
とくたくいみけがせ
おくけみてんふくと
くくいかくくくに
てくれをくろへてた
ナがふをびきよせな
あをてかうまて酒を
をこたせれがこを
せいちくくゆよぬ
れてひちうくなう
こうふりくくせん
ゆもおうがすくてひた
くへくてそわけくう
りく

十二

国立国会図書館　通俗三呑志：3巻 207-564

ガラス使用

国立国会図書館　通俗三呑志：3巻 207-564

ガラス使用

国立国会図書館　通俗三呑志：3巻 207-564

ガラス使用

国立国会図書館　通俗三呑志：3巻 207-564

ガラス使用

207
564

長喜画

国立国会図書館　通俗三呑志：3巻 207-564

ガラス使用

国立国会図書館　通俗三呑志：3巻 207-564

ガラス使用

国立国会図書館　通俗三呑志：3巻 207-564

ガラス使用